



▲法要の様子

第41号

発行所

〒650-0001
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号
TEL 078-341-5949

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院

モダン寺新聞

別院だより

『永代経法要』勤まる

去る六月二十二日（日）神戸別院において『永代経法要』が勤修されました。法要当日は梅雨入りの影響もあり、雨の降る中での法要でしたが多くの方がご参拝されました。

そもそも、永代経という名前のお経は仏教聖典の中にはありません。「永代経」とは、永代にわたってお経をあげる（浄土真宗のみ教えが伝わっていくことを願い勤める）という意味から、このように呼ばれています。また、亡き方のご命日をご縁として仏恩報謝のお念仏に励み、自らが聞法（もんぼう）の機会を得る法要であり、死者の追善供養のために読経をするためのご法要ではありません。

親鸞聖人のお言葉を唯円が記したとされる歎異抄には、「親鸞は父母の孝養のためとて、一返にても念仏申したること、いまだ候わず。そのゆゑは、一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり。」（訳）「親鸞は父母の追善供養のためのお念仏は、一度も称えたことはありません。その理由は、生きとし生けるものは、巡り巡つて全てこの世では父母・兄弟であるからです。」と、お示しくださっています。

このことからも私たちがお伝えさせていただくお念仏は、ただひたすら仏恩報謝のお念仏であると味わうべきであります。

法要当日は、午後一時半より本堂において、『無量寿経作法』をご参拝の皆

さまと一緒にお勧めをいたしました。法要後は、寶池龍祥師（多可組正福寺）をご講師にお迎えをし、ご法縁を頂戴いたしました。



講師の寶池師

最後に先生は、「南無阿弥陀仏を頂くとき、本当の人生が開かれていくのです。」と、法話の最後をくぐられました。今回の永代経法要のご縁を通して、改めてお念仏と一緒に生きていくことの確かさを感じられた尊いご法縁でありました。

兵庫教区サマースクール

去る、七月二十四日（木）～二十六日（土）の三日間、兵庫教区少年連盟サマースクールが網干組政源寺にて開催されました。

兵庫教区内より七十名を超す子供たちが参加し、神戸別院のモダン寺土曜子ども会からも七名の子供たちが参加をいたしました。サマースクール開催中の三日間は梅雨明けの影響もあり、雲一つない快晴。眩しいほどの日差しの中、集まつた子供たちはこのサマー・スクールをとても楽しみにしていましたよ

うで、子供たちの顔からは太陽の日差しにも負けないくらいの笑顔がこぼれています。

今回のサマースクールのテーマは、開催地がたつの市御津町ということもあり、「御ツ津（みつ） 満喫 サマースクール ヨたつの市」でした。

サマースクール初日、十二時半の受付時間になると続々と子供たちが集まりだし、お寺の境内地には子供たちの笑顔と笑い声が響き、その様子を見ているスタッフの先生たちの顔も自然と明るい表情になるほどでした。

しかし、開会式が始まると子供たちの先ほどの笑顔が一転。真剣に先生の挨拶を聞いていました。

開会式終了後は班ごとに分かれ、班のみんなと班のテーマを決めたり、班旗を作つたりと初めて出会ったお友達

と話しながら、楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

そして、夕方になるとみんな楽しみにしていた夕食の時間。夕食はカレー。うどんの屋台が設営され、子供たちは食器を先生からもらうと走って自分の好きな食べ物の前まで走り、長蛇の列を作つて、まだかまだかとそわそわしながら自分の番を待つていました。



「先生も大忙し」

就寝の時間になると本堂の中に布団を引き、みんなぐっすり眠り、あつとくにしていた夕食の時間。夕食はカレー。うどんの屋台が設営され、子供たちは食器を先生からもらうと走って自分の好きな食べ物の前まで走り、長蛇の列を作つて、まだかまだかとそわそわしながら自分の番を待つっていました。

サマースクール一日目の起床時間は六時。起床時間になると、布団をたたみ、洗面の後、夏休み恒例のラジオ体操で体も起きました。七時からは、お朝事（朝のお勤め）があり、正座でしごれる足の痛みを我慢しながら、大きな声でお勤めをしていました。

お勤め後は、掃除、そして朝ごはん。朝ごはんを食べ終わつたころには、眠気もすっかりなくなっている様子でした。



「泥の中で、ハイ!!チーズ!!」

がら遊んでいました。



「これ以上は、やめてー!!」

午後からは、海に移動し海水浴を楽しみました。この日は、一日中外にいたのもあり、みんな真っ赤に日焼けをしていました。

最終日は、このサマースクールの思い出をハガキに書き、会所となつたお寺の大掃除をしました。閉会式ではサマースクールの修了証と写真が配られました。

サマースクールの全日程が終わるとみんなは口を揃えて「もっとお寺に泊まりたい」「まだ、友達と一緒に遊びたい」と、とても寂しそうでした。

あつという間に過ぎた三日間ではありますましたが、今回のサマースクールを通して新しいお友達ができたり、楽しい思い出が出来たりと、子供たちにつづつは忘れられないひと時だったのではないかでしょか。残りの夏休みも元気に過ごしてくれることでしよう。

また、夕食後はライブもあり、子供たちはライブの演奏が始まると、手拍子をしたり、踊つたりと食後の運動としては激し過ぎるくらいの盛り上がりでした。

ライブ演奏終了後、お風呂の時間。お風呂はお寺の近くの温泉に行き、大きなお風呂に入つてみんな疲れを癒していました。

入浴後、お寺に帰つて来ると「就寝勤行（夜のお勤め）」勤行終了後は、先生のご法話がありました。

子どもたちと一緒に

神戸別院では、毎月一回、土曜日に「モダン寺土曜子ども会」という子どもたちを対象とした活動をしています。その活動の一つに春の遠足があります。

今年は、五月三十一日（土）に開催を致しました。行き先は須磨海浜水族園。六人の子どもたちが参加をしてきました。楽しみにしてくれていたのか、みんな大はしゃぎで電車を乗り継ぎ水族館へと向かいました。



「ハイ!! チーズ!!」

お昼ごはんの時間が近づくと水槽を見回っている途中も、子どもたちは「ごはんはまだ?」の大合唱です。お弁当を広げて昼食の時間になると、わいわい食べると食事もおいしく感じます。なんといっても食べるときの笑顔が一番素敵なものたちでした。

昼食を終えても子どもたちは元気いっぱいです。泳ぐ魚たちを見た後はイルカのショーを見学し、その後にはさつきショーや見せてくれたイルカに触れる体験も。普段は海に泳いでいるイルカですから、貴重な体験となつたでしょう。



「おばあちゃんと一緒に」

当日は、土曜日ということでたくさんのお客さんと一緒に、水族館に到着して一言、「涼しい」と云ふ天でした。さすが水族館には少しあつたようです。

その後、かき氷を食べたり、遊園地で遊んだりしたところで、あつとう間に帰宅の時間になりました。楽しめた水族館でしたが、帰り道はみんなお疲れモードです。その日の夜は、ぐっすりと眠れました。

子どもたちにとっては、忘れられないひと時になつたと思います。

宗祖降誕会

五月晴れの、五月二十五日（日）、親鸞聖人のご誕生をお祝いする宗祖降誕会（しゅうそごうたんえ）が勤修されました。

京都のご本山（西本願寺）では、毎年五月二十一日に営まれています。宗祖親鸞聖人は、承安三年（一一七三年）京都の日野の里でご誕生になりました。



きれいにしていただきました

降誕会の前日には昨年に引き続き、神戸別院の仏教壮大年会の方と一緒に、別院の前庭にある銅像とその周辺の清掃活動をいたしました。当日は、五月とは思えないほどの暑さだったこともあり、皆さん額に汗を流しながら清掃をしてくださいました。清掃後は、当日の澄みきった空のような晴れやかな笑顔で親鸞聖人の銅像を眺めておられました。

法要当日は、午後一時より別院前庭の親鸞聖人の銅像の前で、「讚仏偈」の

法話では、「私たちの手というのは縁があれば何でもします。この口も悪口しか言いません。その手が胸の前に合わせて、ナンマンダブツというのであります。」と、私たちが様々な縁を通して尊いお念仏を申すご縁を頂戴していることを熱く話され、参拝者の皆さんは自然と「ナンマンダブツ ナンマンダブツ」という声が聞こえ、お念仏を申させていただくことの有り難さを感じることができたご法要でした。



講師の尾井副輪番

お勤め。読経中にご参拝の皆さまがお焼香をされました。引続き、三階の本堂へと移動をし、『正信念仏偈作法』のお勤めにてご法要が勤りました。法要の中休みなどを利用して、今年も兵庫大学茶道部の協賛による抹茶接待もあり、参拝された皆さまは心落ち着く時間を過ごされました。

また法要後は、尾井秀瑛（神戸別院副輪番）を講師に迎えてご法話がございました。

帰敬式（おかみそり）受式のご案内

『法名をいただいて生きていくこと』

来年、一月十七日（土）「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」にて帰敬式を実施いたしますので、受式を希望される方はお申込みをいただきますよう、ご案内申しあげます。

◇期日 ◇二〇一五（平成二十七）年一月十七日（土）◇時間／午前十一時より ◇場所／本願寺神戸別院（モダン寺）◇集合時間／午前十時 ◇集合場所／三階会議室 ◇申込期限／内願法名希望者・二〇一四（平成二十六）年十一月十日（月）／内願されない方・二〇一四（平成二十六）年十二月十日（水）までに必ずお申込みください。

※内願とは、事前にいただく法名を本山（西本願寺）にお願いをして許可をいただくことです。◇受式冥加金／成人・10,000円 未成年・5,000円 ※内願法名希望者は、別途10,000円の冥加金が必要です。冥加金は当日承ります。

※当日、午後からのご法要に統けてご参拝いただきます方で、昼食（弁当）の手配を希望されます方は、併せてお申込みください。昼食代は、お一人1,000円です。（当日承ります）

問い合わせ先／〒650-0011
神戸市中央区下山手通8丁目1番1号

TEL 078-341-5949

おしえに生きる人びと）の三宝（さんぽう）を心のよりどころとして、敬うこと

を誓うご文（もん）です。

淨土真宗は俗世間の生活を捨てて出

家し、仏門に入るという形はとりません。普段の生活を送る中で阿弥陀さまのお慈悲を我が身に賜つて生きていく

道です。

従つて、実際に髪の毛を剃るということはせず、頭頂部に三度、軽くおかみそりを当てていただくことにより、

剃髪（ていはつ）をしたこととします。

【帰敬式】

法名は仏弟子としての名告りで、『釋

（しゃく）〇〇』と『釋』の文字に続い

て漢字二文字（音読み）で表されます。

仏・法・僧の三宝に帰依（きえ）し、

仏弟子として生きていくことを誓い授

かる名前ですので、生きている間に法

名をいただくのが本来です。

法名の『釋』の文字は、仏教をお示

し下さったお釋迦様（釋迦牟尼仏（し

やかむにぶつ）より『釋』の一文字を

いただくことで、お釋迦様の弟子、即

ち仏弟子であることを表します。

浄土真宗の法名は、釋〇〇の二字の

法名以外ではなく、みな平等にお浄土へ

の道を歩ませていただくというおしえ

（ぶつ）としての名告（なの）りとして『法名（ほうみょう）』をいただきます。

帰敬式を受式し、共にお念仏をよろ

こぶ人生を歩みましょう。

※三帰依文 南無帰依仏（なもきえぶつ）・南無帰依法（なもきえぼう）・南無

ごう）四字・六字の戒名や、修行生活の形態を表す位号（いごう）（信士・居士・

信女・大姉等）などはつけません。

（事務局）

第一土曜仏教講座

九月

六日（土）午後一時半より
◇講 師 ◇龍谷大学教授
入 澤 崇 師

別院仏婦定例法座

七日（日）午後一時半より
◇講 師 ◇神戸東組専念寺
平 田 豊貴夫 師

常例法座

十五（月）・十六（火）午後一時半より
◇講 師 ◇出石組乗専寺

本 多 龍 典 師

秋季彼岸会

二十一日（月）～二十四日（水）
午後一時半より

◇講 師 ◇京都教区城南組西方寺
岡 橋 聖 舟 師

編集後記

梅雨も明け、すっかり夏本番となりました。お参り中も外からは、蝉の大合唱が聞こえています。蝉は地中から出ると約一週間でその生涯を閉じます。そんな蝉の姿から、命の尊さや大切さを感じている毎日です。（事務局）